

## 1. 調査報告概要表

## 【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年8月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771601909
法人名	特定非営利活動法人 吹田市民NPO
事業所名	グループホーム「あい」
所在地	吹田市南高浜町22-7 (電話) 06-4860-7773

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成19年8月15日

## 【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	6人
職員数	14人	常勤	5人, 非常勤 9人, 常勤換算 8.1人

## (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000/45,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金	有( )円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,300円			

## (4) 利用者の概要 (平成19年7月1日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.2歳	最低	79歳	最高	83歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会吹田病院、相川病院、糠谷歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に定着している特定非営利活動法人が運営するグループホームで、行政の助成を受け近隣に「地域ふれあいサロン」を運営するなど、地域に密着した事業運営を目指しています。管理者は「“ゆっくり一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です」という理念を目指し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らせるよう支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿うよう支援し、言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。協力病院の医師と看護師資格のあるホーム職員とのサポートが利用者と家族に安心感を与え、利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価の指摘事項について改善の取り組みがなされています。職員研修の充実について、管理者は認知症ケアマネジメントセンター方式の研修に5人の職員を派遣受講させ、全職員に対しホーム内で計画的に伝達研修を行っています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者は自己評価を実施する意義を理解し、現状の課題の理解と改善方策の立案を行うため、管理者とリーダー、職員の意見をまとめ自己評価を完成させ、サービスの改善に取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議を開催し記録を残しています。会議では地域包括支援センターの担当者、自治会長、地区福祉委員会委員長、民生委員兼介護相談員、ボランティア連絡会会長、地域の医師、家族の参加があり、ホームの運営状況と課題、利用者の生活ぶり、ふれあいサロン運営状況、学校や地域との交流等について報告し意見を求めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族が訪問する機会は多く、面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えていきます。日々の利用者の心身の状態についても、必要の都度電話で家族へ報告をしています。また毎月、利用者の生活振りについてしたためた手書きの手紙を家族に送付するとともに、3ヶ月毎には「あい」通信を発行して、行事や生活状況について写真と一緒に送付しています。家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また、介護相談員を受け入れ、利用者や家族の意向を運営に反映させる努力をしています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの前に歴史的にも由緒のある神社があり、境内には自治会館もあって、地元のお祭りはじめ餅つき大会などの季節の行事や毎朝のラジオ体操などの拠点となっていて、利用者は参加をしたり、見物をしたりして楽しみ、地元の人々とも交流しています。母体法人はホームと協力して行政の支援のもと、近隣でふれあいサロンを運営しており、食事会や喫茶の会をしています。利用者も参加し地元の人と交流しています。

# 1. 調査報告概要表

## 2. 調 査 報 告 書

(          部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は「“ゆっくり一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です」という理念を目指し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、社会的な関係を保ちながらその人らしく暮らせるよう支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示するとともに、管理者は月例のミーティングでもレジュメに書き込み、職員と理念を共有するべく話し合い、運営のあらゆる場面での原点にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	ホームの前に歴史的にも由緒のある神社があり、境内には自治会館もあって、地元のお祭りをはじめ、餅つき大会などの季節の行事や毎朝のラジオ体操などの拠点となっており、利用者は参加をしたり、見物をしたりして楽しみ、地元の人々とも交流しています。行政の支援のもと、近隣でふれあいサロンを運営しており、食事会や喫茶の会を行っていますが、ここにも利用者が参加し地元の人と交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の指摘事項について改善の取り組みを実行しています。自己評価は管理者と常勤職員が案をつくり、他の職員の意見を聞きながら完成させています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し記録を残しています。会議では地域包括支援センターの担当者、自治会長、地区福祉委員会委員長、民生委員兼介護相談員、ボランティア連絡会会長、地域の医師、利用者家族の参加があり、ホームの運営状況と課題、利用者の生活ぶり、ふれあいサロン運営状況、学校や地域との交流等について報告して意見を求めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政の事業者連絡会に参加するとともに、自らの働きかけで結成されたグループホーム部会において、事業所間の交流の機会を増やしたり、行政の介護相談員を受入れてサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問する機会は多く、面会時には利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。利用者の心身の状態についても必要の都度電話で家族への報告をしています。また毎月、利用者の生活ぶりについてしたためた手書きの手紙を家族に送付するとともに、3ヶ月毎には「あい」通信を発行して、行事や生活状況について写真と一緒に送付しています。収支と残高について定期的に家族へ報告していますが、家族の署名が確認できませんでした。	○	預り金の収支と残高について定期的に家族に報告した時、確認の日付と署名押印を受けることが求められます。
8	15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時にできるだけ会話をし、家族が希望や願い、不満を表せるように対応しています。また介護相談員を受け入れ、利用者や家族の意向を運営に反映させる努力をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームは1ユニット6人と少人数の利用者で、職員の異動も稀であり、利用者とは家庭的で安心と馴染みのある関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の外部評価で職員の研修機会を増やすような取り組みが求められていましたが、管理者は認知症ケアマネジメントセンター方式の研修に5人の職員を派遣し、ホーム内で全職員に対し計画的な伝達研修を行っています。採用時研修も実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市の事業者連絡会グループホーム部会や地域ケア会議を通じ、相互の交流・研修会を行いサービスの質の向上を目指し研鑽に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<b>○馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者の通う介護施設や家庭訪問で家族や利用予定者と面談し、ホームの見学も行ってもらい利用者と馴染みの関係を作り、家族や本人の不安を取り除き安心して入居しサービスを受けられるようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	利用者が孤立することなく日々の生活を送れるよう、それぞれが得意なことや仕事を持ち、ホーム内で役割を持って生き活きと活躍できるよう支援しています。職員は、本格的に写真撮影に取り組んでいた利用者の昔話を聞いたり、利用者に居室で好きなクラシック音楽をCDで聞いてもらったり、洋裁が得意だった利用者に教えてもらったりしています。毎日、近所のお墓にお参りに行く利用者の支援をすることで関係を築いている例もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の情報シートを使って利用者と家族から聞き取っている内容や毎日のケアを通じて知る「気付き」を大切にして記録をとることで利用者の情報が充実しつつあり、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向が明らかになり、要望に沿う支援ができるようになっていきます。居室に使用していた鏡台を持ち込むことで落ち着いた利用者や、入浴を好まれない利用者の関わり方を変えることで解決した例もあります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のセンター方式の情報シートにある情報と利用者の現在の暮らしの状況や心身の状況からアセスメントを行い、医師や看護師の意見、利用者と家族の意向・願いを反映した介護計画を作成し、カンファレンスを経て介護計画を完成させています。ただ家族の同意の署名を貰っていません。その後利用者の生活や活動の目標を達成するため、援助項目毎に「気付き」を大切にしながらモニタリングを行い介護計画の見直しにつなげています。	○	作成した介護計画を利用者・家族に説明した時、同意の署名を得ることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、状態の変化がある時はその都度見直しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院との連携や看護師資格のあるホーム職員により利用者の状態に必要な看護を受けています。運営している地域ふれあいサロンに利用者が参加したり、ホームに地元のボランティアを定期的に受入れています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はかかりつけ医師（医療機関）の医療を受けています。通院介助をするとともに往診もあります。協力病院と連携し夜間や急変時の対応についての体制整備をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象になる利用者はいませんが、将来利用者が重度化し終末期を迎えた場合、できるだけ早い段階から利用者と家族、医師とも話し合い、方針を共有しながら対応することとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。利用者には笑顔が見られ落ち着いた様子で過ごしています。個人情報の取り扱いについても職員に書面で周知徹底しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと好きなことをしながら暮らせるよう支えています。職員が制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。毎日、近所のお墓参りに行く利用者支援しています。また毎朝、ホーム前で行なわれるラジオ体操に参加した後は、玄関まわりを掃除する利用者や、毎日でも入れる風呂の入浴時間は夕食後も含めて利用者のペースに合わせて支援しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を聞きながら作成した献立表に従い、主食材は業者から取り寄せ、足りない物は利用者と一緒に買物し、下ごしらえから調理、後片付けにいたる一連の流れを利用者も参加しながら楽しんでいます。おから作りの得意な利用者、揚げ物の得意な利用者もいます。職員は利用者と同じ食事を摂りながら、入居者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しく和やかな雰囲気を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は夕食後を含めていつでも入浴が可能で、ゆっくり寛いだ入浴ができています。希望すれば毎日でも入浴ができます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	著名な写真家に学びながら本格的に写真に取り組んでいた頃の思い出話をされたり、居室で好きなクラシック音楽を聞いたり、得意な洋裁を職員に教えたり、お墓参りやラジオ体操を日課にしたり、おから作りや揚げ物、おはぎ作りの得意な利用者がいたりして、センター方式による情報や気付きの記録で把握したこれまでの生活歴を活かし、気晴らしを行うことで利用者が生き生きとした生活を過ごす支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前にある神社境内への散歩やスーパー・商店街での買物、墓参りを日課にして楽しむ利用者や、地域ふれあいサロンに参加し地元の人と交流する利用者がいます。自治会の行事に参加したり、外食に出かけたり、季節の花見にも出かけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のドアに鍵をかけていません。利用者は職員の見守りのもとで自由に外出ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、消防署の協力を得て年2回の消防、避難訓練を行っています。非常用食料品と水の備蓄については特別な対応はありませんが冷蔵庫や収納庫の在庫があり、最低限の量は確保しています。非常・災害時のための食料品と水の備蓄について「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成しておくことが望まれます。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量について記録をとっています。栄養バランスについては献立について知り合いの病院の栄養士にアドバイスを受けています。水分摂取量については以前に医師の指示で特定の利用者の摂取量の記録をとったことがあります。現在摂取量が不足しがちな利用者がないため記録をとっていません。高齢者は季節や体調によって水分不足が深刻になることがあります。水分摂取量についても体調に応じて記録をとることが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には神社境内に面してベンチがあり利用者が座って楽しんでいます。また、ホオズキを飾ったり、季節の花や植木を置き、生け花も飾られていて訪ねやすい雰囲気になっています。季節の花を飾ったりリビング兼ダイニングルームは少人数の利用者に手頃なスペースで、食卓の傍らには、畳表のベンチや椅子が置かれ寛げる居場所となっており、全体として家庭的な共用空間になっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者がベッド、整理ダンス、収納ケース、椅子、飾り棚、鏡台、装飾品、遺影や家族の写真、テレビ、ラジカセ、その他の使い慣れた馴染みの古い物や生活用品を自由に持ち込み、利用者が安心して過ごせる居場所になっています。		